

奈良県指定文化財調査票

調査日	2021 年	7 月	17 日	記入者	饗庭 美波子	
調査者名	饗庭	石井	大谷	垣内	久門	鶴田

文化財名	西安寺跡					
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ( )	
指定年月日	2019年(平成31)2月22日					
所在地	北葛城郡王寺町舟戸2丁目					
所有者 管理者	舟戸神社					
員数						
時代区分	飛鳥時代					
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)		
案内板の状況	案内板はなし。説明板は一つあり、綺麗で読みやすい。					
公開	常時					
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input checked="" type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い	
	補足 ( )					
当面の課題	説明板に掲載されている写真が、説明板を読む方向とは反対側から撮影されたものであり、理解しづらい。また、案内板や駐車場がなく、現地までの道もわかりにくい。訪れる人にわかりやすいものとなるよう、説明板の修正と案内板の設置を望みたい。					
今後の課題	特になし。2017年(平成29)に西安寺跡史跡整備活用委員会を王寺町が設置、2019年7月には王寺町文化財保存活用地域計画が文化庁長官の認定を受けている。毎年度、発掘調査が行われ、伽藍配置の詳細説明が進められている。					
その他 (由緒など)	西安寺は、聖徳太子建立の46か寺のひとつであり、飛鳥時代に創建されたと考えられている。現在、発掘調査が第10次まで行われ、塔・金堂・東回廊の基壇や瓦・土器などが出土。出土品は王寺町地域交流センターに展示がある。塔と金堂が南北に並ぶことから、四天王寺式伽藍配置と考えられている。若草伽藍と同範の瓦も出土しており、法隆寺と近い関係であった可能性が示唆されている。					
コメント	2019年に県指定されたばかりの史跡で、説明板もとても綺麗なだけに、掲載された写真や地図がわかりにくいことが大変残念。王寺町地域交流センターにある出土品展示も多数あり、瓦の説明もわかりやすくされてあった。現地の説明板に、鳥居や参道といった現存するものを載せるなどし、訪れる人に西安寺跡の史跡としての貴重さが伝わりやすくなることを切に願う。					

# 奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2021 年	7 月	17 日	記入者	饗庭 美波子	
調査者名	饗庭	石井	大谷	垣内	久門	鶴田

文化財名	西安寺跡
------	------

西安寺跡の現地である、舟戸神社の鳥居	発掘調査跡
--------------------	-------



説明板

同上



鬼瓦の説明

出土した若草伽藍と同範の瓦

